

～アイデアを地域の資源と結びつけ地域活性化～

特徴・ポイント

- ・「何がしたいかではなく、どれだけお手伝いできるか」の追求
- ・会員（地域経営者）行政、マスコミ、NPOとのネットワークと協働関係
- ・一貫して人間関係や心を大切にしてきたことによる会員との信頼関係

事業概要

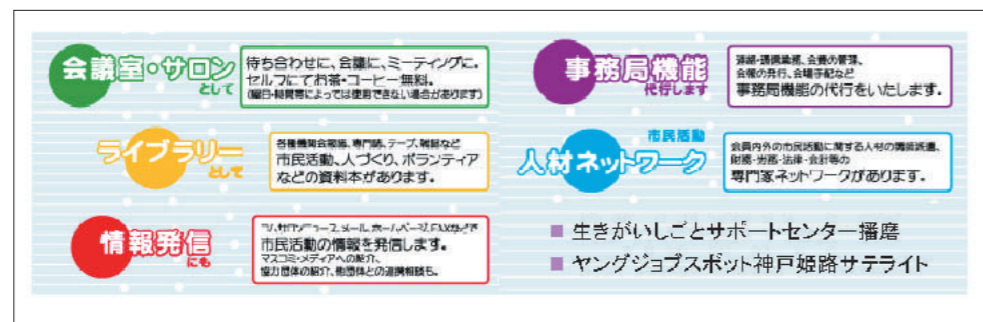
市民活動の事務局代行機能を持った交流サロン。一人では実現が難しいアイデアを人的なネットワーク支援や事務局機能代行により支援。生姜醤油で食べる「姫路おでん」、地元の特産品の生産者が自ら持続的に販売・PRに携わる地産地消活動「亀山御坊楽市楽座」等、面白いアイデアを地域資源と結びつけ、地域活性化を進めている。

何がしたいかではなく、どれだけお手伝いができるか

「コムサロン」は平成3年に異業種交流サロンとして発足した。2度の転機を経て、「交流の場の提供と、社会貢献活動を目指した市民活動団体の中間支援」という現在の目的が明確化した。

中間機関としてのコムサロンのユニークさは、自らの中心事業がないという点。地域のためになる面白いアイデアを受信し、地域の資源（人・モノ・情報・金）を結びつけて実現するという事務局機能にこだわりを持って活動している。例えば、中間機関として、「ノート・引きこもりの人たちが発信したり、発表したりする場がない。何とかならないか」という相談を受け、3年前から厚生労働省の若者サポートステーション事業が始まった。「何をしたいかではなく、どれだけお手伝いができるか」。それがコムサロンのミッションだ。「何でも屋だけど、地域のため、という視点で事業展開している」

コムサロン21の機能



アイデアを皆で実現しようという発想

サロンから生まれたアイデアが地域活性化に繋がった例として、「姫路おでん」が挙げられる。姫路ではおでんを生姜醤油で食べるが、「生姜醤油って姫路だけちゃうん？」と聞き、気になってネットで調べてみたところ、生姜醤油で食べるのは姫路だけだった。2年前、食品関係者に「姫路おでんをやるから」と呼びかけた。「このミッションは私が

言ったので私が代表だが、通常は事務局を担当し、皆がやりたいことをサポートするのがコムサロンの役割」と前川さんは言う。「姫路おでん」は09年2月に組合を発足させ、地域ブランドを取って育てていく予定だ。市の広報誌「市政」にも取り上げるよう働きかけを実施したり、キャラクターを作成したり、積極的にPRしている。

また、「書写塗り」という漆器がある。その書写塗りが廃れていたのを地元の職人に呼びかけて復活させた。そのようなことを言ってくる人のアイデアを皆で実現しようという発想だ。コムサロンはものづくりネットワークの事務局をやっている。

他の人が何気なく言っているアイデアをきちんと受信し、タイムリーに発信する。本人がする気がなくても、「こんなあったらいいな」という声を拾う。



姫路おでんを通じた地域活性化

発想としてはお手伝い。新聞へも。行政へも

コムサロンはマスコミとの連携が強い。様々な地域のためのイベントを仕掛け、その事務局となっているが、「地域でやっていますよ」と言うとマスコミが協力し、取り上げてくれるという。協力関係を築くため、マスコミから依頼があれば必ず対応する。コムサロンは事務局機能を担っていることからネットワークの拠点となり360度の事業展開になるのでマスコミも情報収集がしやすく、「こういうことありませんか？」と記者が聞いてくる。新聞記者の情報収集のサポートをしている。発想としてはお手伝い、と前川さんは言う。その姿勢はマスコミへも行政へも同じだ。

コムサロンは行政から2つの大きな事業の委託を受けている。「行政とは協働関係」と前川さんは言う。きちっと事業を受けられるような力をつけて委託を受ける。コムサロンでは、スタッフがキャリアカウンセラーの資格を取るための支援をしている。

理事会の拡大版で合議する

コムサロンの会員は現在約160名。年会費36,000円を頂いているという。160名のうち、40名ほどがコムサロンへ事務局を依頼している。この40名には運営委員になるように呼びかけている。運営委員会は理事会の拡大版で新会員の承認や、新しいサロン活動の承認などを合議制で決める。理事会を毎月やっているようなものだと言っている。

事務局機能に徹する。一見、無色透明なようだが、強い個性を感じるミッションともいえる。

団体名：特定非営利活動法人 コムサロン21
 代表理事 前川 裕司
 住 所：兵庫県姫路市
 HPアドレス：http://www.com21.or.jp